

## 分科会方針の検討

以下の3項目について本資料をもとにご検討ください

1. 山古志復興のロードマップ(帰村と再建のシナリオ)
2. 各分科会で検討すべき事項(復興のために必要な計画や取り組み)
3. 分科会における検討内容、方向性(各項目ごとの意見・アイデア等)

第1回分科会では、各分科会で検討する項目の確定をお願いします。また、各項目の内容や方向性について、自由なご意見をいただき、次回の議論につなげたいと考えます。

### 1. 想定されるロードマップ(案)

< 集落再建 >		< 想定される活動 >
平成17年 (2005年)	(4月:長岡市と合併) <b>一部集落の帰村(被害軽微+安全確認)</b> 冬期は仮設住宅に戻る条件つき帰村 <b>一部公共施設の開設</b>	春:全域での安全確認調査(雪どけ後)  公共施設(学校、診療所等)の開設準備 仮設住宅と村との二重生活への対応 交通手段等
平成18年 (2006年)	<b>先行集落の完全帰村(冬期も村で生活)</b> (12月:仮設住宅使用期限 延長手続き)	村内を結ぶ道路の復旧・新設  住宅施設の支援・準備
平成19年 (2007年)	<b>全集落の帰村(一部は仮の場所への集住)</b> 再移転を前提に仮設の集合住宅に入る集落もある	生活再建、産業・経済再建の本格的スタート
平成21年 (2009年)	<b>全集落の完全帰村</b> 最終的な居住場所への移住完了	産業・経済の新たな取り組みスタート
平成27年 (2015年)	<b>被災からの本格復興</b> 生活満足度の回復、来訪者や交流の増加 等 (各種復興関連支援制度の終了期限)	



## &lt; 分散帰村と一括帰村の比較 &gt;

方 策	長 所	短 所	条 件
<b>分散帰村</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の帰村欲求を満足</li> <li>・自立再建意欲を促進できる</li> <li>・「帰村」という目標が現実のものとして意識され、活力が生まれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落による差が生まれる</li> <li>・安全性に不安が残る</li> <li>・基盤整備や公共施設等に関して一部重複した投資が必要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期は仮設住宅に戻る</li> <li>・立ち入り禁止地区の設定</li> </ul>
<b>一括帰村</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落による差が小さくなる</li> <li>・安全性が確保される</li> <li>・基盤や公共施設を効率的に進めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰村までに時間がかかる</li> <li>・住民の意欲の低下</li> <li>・離村者の増加</li> <li>・働く場や文化の喪失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り村へ戻る機会を確保・提供</li> <li>・通勤しての農作業等</li> </ul>

**早期帰村に向けた基盤整備計画（生活再生分科会と連携）**

- ・基本方針.....安全を最優先、帰村に合わせた整備活動の集中化
- ・必要な基盤.....村内の道路、公共施設（学校、保育所、診療所等）、雪対策  
分離帰村の場合、公共施設の整備を遅らせ、交通による便宜提供も考える
- ・整備の進め方.....国の協力、必要な制度、活用できる制度 等

**復興に向けた土地利用計画及び基盤整備計画（3つの分科会の議論を集約）**

- ・復旧する地域とそれ以外の地域の区分（被害状況とコストの視点）
- ・居住（集住）可能な適地の選定（集落移転を視野に入れる）
- ・山古志地区内の新しいゾーニング計画
  - （例）・新しい集落群の中央に公共施設（学校等）を集中し公共ゾーンを形成
  - ・復旧が困難なエリアを「防災教育エリア」として保存 等
- ・基盤整備計画（方針の提示）
  - （例）・道路整備計画（道の駅、ネットワーク化）
  - ・生活と産業・経済のための基盤整備計画（交流施設、冬期の安全性）

< 中長期の取り組みに関して >

### 継続的な安全・安心を確認・確保するための考え方と方策

- ・土砂崩れ等の災害を防ぐためにどのような取り組みが必要か
- ・被災地における雪対策はどうあるべきか

### 新たな山古志づくりを進めるためにどのような基盤整備が必要か

- ・「安全・安心」の整備から「交流・活力」の基盤整備への展開
- ・生活や産業・経済活動に寄与する新たな基盤整備（IT、公園、交流施設）
- ・ハードだけではないソフトの視点からの基盤整備（しくみ、体制、広域連携）

### 地域資源を活かした地域づくり、地域活性化活動の展開

### 山古志地区の望ましい将来のイメージ

- ・山古志地区は10年後、20年後にどのような地域をめざすのか

参考：他の分科会における検討事項

#### 生活再生分科会

### 帰村前（平成17-18年）の仮設住宅における生活と支援のあり方

- ・帰村前の（仮設住宅の）暮らしの問題点は何か、何が必要か  
（例）収入の手段、帰村意欲の喪失、通勤による営農システム
- ・先行して帰村する集落や住民の暮らしの問題点は何か、何が必要か  
（例）収入の手段、学校や保育所等の施設、仮設住宅と行き来できる交通手段
- ・帰村を待つ住民にどのような支援が必要か（高齢者が多いことも考慮）

### 住宅再建に関する支援方策（考え方と具体的な提言）

- ・中山間地（山古志）の住宅再建の課題（高齢化、現金収入が少ない、ローンが組めない等）
- ・現行の住宅関連支援制度の制約
- ・住宅再建における「山古志モデル」の構築  
（例）・自主再建可能な世帯は不足分を支援  
・自主再建困難な世帯には、仮設住宅を長期貸与（又は、公営住宅を低価格で長期間貸与）

## 生活再建及び早期帰村のために必要となる取り組み

- ・農地や現金収入の手段をどう支援するか（共同営農は難しい）
- ・どのような基盤整備が必要か、優先すべきか  
（村内の道路ネットワーク、学校等の公共施設、防雪施設 等）

### 産業・経済再生分科会

## 産業・経済再生の基本的な考え方や将来イメージ等の整理

- ・山古志の地域資源の確認  
（山、風景、ライフスタイル、文化、食、全国的知名度）
- ・高齢化や過疎が進行する中での今後の産業・経済の方向性  
（交流による活性化、山古志ブランドの構築と活用、転入者の獲得）
- ・山古志の将来イメージ  
（山の文化・ライフスタイルと産業経済活動の融合）

## 「震災」を活用する考え方の検討

- ・「中山間地の地震災害」を体験・学習するエリアとして整備  
（例）・被災地をそのまま残しフィールド・ミュージアム化
  - ・周辺の主な被災地を組み合わせた防災教育エリア（ツアー）
  - ・震災を語り継ぐ「語り部ボランティア」制度

## 産業・経済再生のためのプログラムやシナリオの検討・作成

- (例) ・ 「道の駅」を拠点とした山古志ツーリズム
- ・ 米を中心とする「山古志ブランド」の育成・発信
  - ・ 棚田や牛のオーナー制度
  - ・ 「防災教育エリア」として交流活動を拡大
    - ガイドや語り部民泊システム等で現金収入を確保
  - ・ 転入者（営農希望者）を受け入れるためのしくみづくり（山古志学校）
  - ・ 「鯉の学校」（養殖技術を学ぶ国際的な学習施設）